

職務体験記

【募集職種】一般事務職

私は、大学卒の一般事務職として、幸田町の採用試験の受験申込みをしました。地元の幸田で働きたい、大学で勉強した公共政策の知識を活かした仕事がしたいと思い、公務員を志望しました。幸田町の採用試験の日程が遅いこともあり、他自治体や地元民間企業と併願しながら就職活動し、無事、幸田町役場に採用されました。

入庁1年目は、役場庁舎3階の企画政策課に配属されました。担当業務は、男女共同参画、消費生活、国際交流、統計調査と、全く分野が違う業務かつ多岐に渡った内容で、各種団体の方々との調整や自分より年上の方への指導など、慣れないことばかりでした。窓口対応は少ない部署でしたが、それでも町民の方から問合せや要望、苦情を受けることがありました。また、業務が重なると残業となったり、行事があると休日に出勤したり、入庁前にイメージしていた公務員とは異なることも多くありました。しかし、上司に御指導いただいたり、先輩に御協力いただいたりすることで回数を重ね、次第に慣れ、時間をかけず質の高いものをつくれるようになり、やりがいを感じるようになりました。

役場の職員は自分の担当する日々の業務をこなすことは当然ですが、それ以外にもスポーツ大会やお祭りの交通整理や選挙事務の運営協力等、他部署の業務の応援に駆り出されることもあります。また、災害時には、担当部署以外の職員が召集されることもあります。入庁2年目は防災行政無線の担当をしており、台風接近時に召集を受け、深夜まで勤務しました。当時は、大きな被災にはならなかったため、半日程度で解散となりましたが、近年、多発する災害の被災地のニュースを見るたび、被災自治体の職員は、自分の家族よりも自治体を優先にし、長時間働き詰めでおられるだろうと思うと胸が痛むとともに、幸田町でも、いつかくるであろう災害のことを想像すると、とてもつらいです。

私が、次に配属された部署は人事秘書課でした。役場は部署が変わると仕事の内容ががらりと変わってしまうので、分からないことばかりで新しく覚える必要があります。なおかつ、私は県外の職場に出向することとなりました。知らない土地で、初対面の方々と一緒に仕事をするに不安はありましたが、多くの方に支えていただき、御指導いただき、新しい業務にも環境にも慣れていきました。業務も落ち着き、自身のステップアップのため、新しいことに挑戦していきたいと考えていた最中、新型コロナウイルス感染症が流行し始めました。

徐々に感染拡大し、幸田町始め多くの自治体では、感染防止の物品の購入、イベントの中止や、公共施設の利用中止、また、10万円の特別定額給付金の給付業務や現在で

は、ワクチン接種の対応など、担当部署では今までに経験したことのない対応に追われました。時には、他部署の業務応援に駆り出され、休日に出勤することもあります。また、町民の方からコロナ関連の問合せや苦情を受けることが多く、担当部署は疲弊し、業務は多忙化しています。この状況もあり、公務員を取り巻く環境は年々厳しいものになっています。公務員の仕事は増えるばかりで、財政状況は常に厳しく、人員を増やすこともできず、問題は積み重なっていくばかりです。

日々の業務では、手続に時間がかかったり、行政のルール上対応できないこともあったり、町民の方からは怒られることが多く、また人の役に立つ仕事をして、公務員としてごく当然なことのため、感謝されることがないのはほとんどです。損をする役回りばかりのこともあります。イベントや事業を成し遂げた時の達成感や参加者の笑顔などやりがいを感じることもあります。これからも公務員として、これからも真摯に努力を続けていきたいと思っています。